



北海道神経難病研究センター 平成24年度活動報告

第2号

(平成24年4月～平成25年3月)

北海道神経難病研究センター

刊行にあたり

北海道神経難病研究センターは、平成 23 年 7 月に神経難病に関する病態解明および学術的治療研究、看護をはじめとしたコメディカルによる多角的臨床研究、神経難病患者を中心とした医療環境に対する調査・研究を行い、これら神経難病に対する総合的かつ包括的な研究を推進し、北海道における神経難病医療と環境の発展を図ることを目的に設立した。

研究センター全体としての活動は、平成 24 年 11 月 4 日に北海道神経難病研究センター設立記念講演会を開催した。各部門での活動も開始され、神経難病リハビリテーション部門が「北海道神経難病リハビリテーション研究会」を設立し、「第 1 回北海道神経難病リハビリテーション研究会 講演会」を平成 25 年 3 月 17 日に開催し、札幌市内のリハスタッフ 300 余名が参加され、パーキンソン病のリハビリテーションを学んだ。また、神経難病臨床研究部門を中心に「神経難病緩和医療研究会」を設立し、第 1 回研究会を平成 25 年 2 月 4 日、第 2 回研究会を平成 25 年 3 月 28 日に開催している。

北海道神経難病研究センターの各部門での活動が徐々に活発となり、新しい神経難病医療社会の構築をめざし真摯に研究に着手し始めている。

今後も北海道における神経難病医療と環境の改善、発展を目指して、努力する所存でありますので、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

平成 25 年 3 月

専務理事・センター長 森若文雄
代表理事 濱田晋輔

北海道神経難病研究センター 概況

(1) 設置年度：平成 23 年 7 月 7 日

(2) 組織：北海道神経難病研究センター 最高顧問：田代邦雄

同 センター長・専務理事：森若文雄

同 代表理事：濱田晋輔

研究部門（主任研究者）：

- 1) 神経難病臨床研究部門（武井麻子、相馬広幸）
- 2) 神経難病リハビリテーション部門（中城雄一）
- 3) 神経難病看護・ケア部門
（斎藤由美子、佐藤美和、石田千春、下川満智子）
- 4) 神経難病関連（検査、薬剤、栄養）部門
（杉山和美、北條真之、石井いつみ）
- 5) 神経難病在宅医療・地域医療部門（本間早苗、濱田啓子）
- 6) 神経難病医療相談・福祉支援部門（黒田 清）

(3) 事業

- 1) 神経難病医療に関する臨床医学的調査・研究
- 2) 神経難病に関するリハビリテーション研究
- 3) 神経難病に関する看護調査・研究
- 4) 神経難病医療とその関連諸部門の学際的調査・研究
- 5) 神経難病に関する地域・在宅医療調査、研究
- 6) 神経難病医療に関する患者を中心とした環境調査・研究
- 7) 第1号から第6号まで掲げる調査・研究に対する研究助成
- 8) 北海道における神経難病医療に関する諸交流の推進
- 9) 神経難病医療に関する研究者の育成
- 10) 神経難病医療に関する諸成果の刊行
- 11) 神経難病医療に関する研修会・講演会・シンポジウム等の開催
- 12) 神経難病医療調査・研究に関する文献等の収集及び閲覧
- 13) 北海道における神経難病医療調査・研究の受託
- 14) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

平成 24 年度活動状況：

1 研究会開催：

(1) 北海道神経難病センター開設特別記念講演会（資料 1、2）

平成 24 年 11 月 4 日（日）に札幌グランドホテルグランドホール 2 階で 13 時 30 分～15 時 45 分に 2 演題による講演会を開催した。講演 1 は、日本難病・疾病団体協議会代表伊藤 たてお氏による「神経難病医療に期待するもの」、講演 2 は北里大学東病院神経内科講師、北里大学東病院難治性疾患難病センター センター長荻野 美恵子氏による「神経難病と緩和医療」であり、300 名を超える方々の参加を得た。

(2) 北海道神経難病リハビリテーション研究会（代表：神経難病リハビリテーション部門 中城雄一）（資料 3、4）

北海道神経難病リハビリテーション研究会は、神経難病と神経難病に対するリハビリテーションの知識と技術の向上、神経難病リハビリテーションのエビデンスの構築、神経難病にかかわるセラピストのネットワークの構築を目的に平成 24 年 12 月日に設立された。研究会目的達成のため、神経難病リハビリテーションに関する学術集会を開催するが、平成 25 年 3 月 17 日に第 1 回北海道神経難病リハビリテーション研究会 講演会を札幌市内のリハスタッフを対象に開催した。理学療法士 137 名、作業療法士 99 名、言語聴覚士 31 名、医師 9 名、看護師 8 名を含む、323 名が参加され、パーキンソン病のリハビリを学んだ。

(3) 神経難病緩和医療研究会（代表：神経難病臨床研究部門 武井麻子）

第 1 回研究会 平成 25 年 2 月 4 日

神経難病に対する薬物治療、非薬物療法を含めた緩和医療について、①緩和医療に関する治療、看護のみならず、介護、医療経済など、様々な分野の問題点を検討する事②各施設の症例経験を共有し、神経難病の緩和医療の具体的な手法を確立していく事を目的とし設立された。

今後の計画、研究会代表、顧問、院外幹事、委員（すべての部門）と指針を説明し、研究会を設立した。

第2回研究会 平成25年3月28日

- (1) 症例報告：武井麻子（プリオン病の疼痛と呼吸苦に対して塩酸モルヒネを使用した第1症例）佐藤美和（その経過に関わった職員へのアンケート調査）
- (2) 教育講演：高橋喜美子先生（札幌中央ファミリークリニック）
「神経難病とがん 呼吸困難時の対応の違い」を「神経難病在宅療養ハンドブック（成田有吾編集、高橋貴美子先生共著）メディカルレビュー社）をもとにしたモルヒネの使い方などを学んだ。

平成25年度は6月に第3回研究会開催を計画している。

2 各部門の活動状況

（1）神経難病臨床研究部門

臨床研究部門は、各部門と連携し、研究を展開している。

1) 原著：

1. 工藤絵梨果、西澤典子、折館伸彦、目須田康、葛西聡子、菊地誠志、武井麻子、福田 諭：パーキンソン病の嚥下機能評価—定量的評価におけるDSSの有効性の検討—, 音声言語医学, 54(3) 2013
2. 武井麻子、濱田晋輔、相馬広幸、本間早苗、濱田啓子、森若文雄、田代邦雄：Tandospironeのdrug holidayが長期間奉効したmachado-Joseph病の1例、神経治療 29：745-748. 2012

2) 著書・総論・解説：

1. 佐々木秀直、武井麻子：8. 小脳、イラストでわかる神経症候—機能・解剖学から診断へのアプローチ、近藤智善、野元正広監訳、丸善出版（東京）, 280-301, 2012
2. 武井麻子、藤田賢一：Ⅱ. 神経筋疾患に伴う発声発語障害、言語聴覚療法シリーズ(14) 改訂音声障害、荻安誠、城本修編著、建帛社（東京）, 244-260, 2012
3. 濱田晋輔、森若文雄、田代邦雄：寄生虫による脊髄炎、神経内科 77;82-91, 2012
4. 濱田晋輔、森若文雄：無機水銀中毒、今日の神経疾患治療指針第2版、水澤

英洋、鈴木則宏、梶 龍兒、吉良潤一、神田 隆、斉藤靖延人編集、医学書院（東京）、844-847, 2013

3) 学会活動, 国際・外国学会:

1. S Hamada, Y Nakashiro, Y Tagami, T Izumi, H Sohma, S Homma, K Hamada, K Hamada, A Takei, F Moriwaka, K Tashiro: Use of checked flooring to improve the gait of Parkinson's disease patients, The 1st Korea-Japan NeuroRehabilitation Conference. 2012
2. A Takei, S Hamada, H Soma, S Honma, K Hamada, H Moriwaka, K Tashiro, H Sasaki: Treatment of spinocerebellar degeneration with serotonin agonist, 16th CONGRESS OF THE EUROPEAN FEDERATION OF NEUROLOGICAL SOCIETIES. STOCKHOLM 2012
3. I Tamura, S Hamada, S Homma, H Soma, A Takei, K Hamada, F Moriwaka, K Tashiro, The awareness of everyday memory deficits in patients with Parkinson's disease, 16th Congress of The European Gederation of Neurological Societies. STOCKHOLM 2012

4) 学会活動: 国内全国学会・班会議

1. 中城雄一、泉達弥、田上裕子、濱田晋輔、森若文雄: 市松模様床面がパーキンソン病患者の歩行に与える影響〜Timed up and Go test を用いて〜, 第3回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会（横浜）2012/02/25
2. 濱田晋輔、佐藤美和、下川満智子、斉藤由美子、中城雄一、相馬広幸、本間早苗、武井麻子、森若文雄、田代邦雄: 神経難病患者の生活の質に関する研究—SF-8 を中心に一, 第3回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会（横浜）2012/02/25
3. 桑原巧巳、加藤恵子、武井麻子、田村 至、森若文雄: 高次脳機能障害、運動障害に Rivastigmine patch と作業療法の併用が奏功したパーキンソン病, 第30回日本神経治療学会総会（北九州市）2012/11/30
4. 加藤恵子、桑原巧巳、高橋美博、田村 至、武井麻子、森若文雄: パーキンソン病の遂行機能障害に対する視知覚刺激を用いた認知リハビリテーションの効果について, 第36回日本高次脳機能障害学会学術総会（宇都宮）2012/11/23
5. 三條伸夫、日熊麻耶、日詰正樹、水澤英洋、佐藤克也、山田正仁、村山繁雄、

森若文雄、青木正志、西澤正豊、黒岩義之、犬塚 貴、武田雅俊、阿部康二、村井弘之、北本哲之、中村好一、原田雅史、金谷泰宏：我が国の遺伝性CJD(V180I)における髄液バイオマーカー所見と発症年齢と罹病期間の関連性について、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究 平成 24 年度総括・分担研究報告書（研究代表者 水澤秀洋）、PP41-44, 2013 年 3 月

6. 森若文雄、丸尾泰則、山田萌美、松島理明、横山徳幸、工藤和洋、下山則彦、北本哲之：V180I 変異を認めたクロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）の 1 剖検例、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究 平成 24 年度総括・分担研究報告書（研究代表者 水澤秀洋）、PP49-51, 2013 年 3 月
7. 森若文雄、田島康敬、水戸泰紀、伊丹弘恵、柳内 充、辻 隆裕、深澤雄一郎：Val210Ile 変異を有する CJD の 1 剖検例、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究 平成 24 年度総括・分担研究報告書（研究代表者 水澤秀洋）、PP52-54, 2013 年 3 月

5) 学会活動:学会地方会

1. 小室祐子、徳永典子、坂野康介、武井麻子:在宅復帰が困難と予測される事例が妻としての役割を再獲得するまで, 第 33 回札幌病院学会（札幌）、2013/02/02
2. 守田えりい、藤田賢一、尾野美奈、武井麻子:新人言語聴覚士として神経難病患者を通し学んだこと, 第 33 回札幌病院学会（札幌市）、2013/02/02
3. 新藤和季、加藤恵子、森若文雄:抑うつ状態の患者に対する創作活動選定についての考察 ー高齢期パーキンソン病の事例を通してー, 第 33 回札幌病院学会（札幌市）、2013/02/02
4. 西海顕一郎、伊藤裕子、森若文雄:パーキンソン病患者における立ち上がり動作と視覚刺激について, 第 33 回札幌病院学会（札幌市）、2013/02/02
5. 西村日和、日比純太郎、伊藤裕子、神原美里、坂野康介、中城雄一、森若文雄:パーキンソン病患者の姿勢異常に対する体幹回旋ストレッチの即時的効果について, 第 33 回札幌病院学会（札幌市）、2013/02/02
6. 畑中茉紀、伊藤裕子、坂野康介、中城雄一、森若文雄:パーキンソン病患者

の歩行における口頭指示の影響について, 第 33 回札幌病院学会 (札幌市)、
2013/02/02

6) 社会活動, 検診・医療班,

1. 藤田賢一:平成 24 年度リハビリテーション支援事業(言語聴覚士派遣), 5 月・7 月・9 月・11 月・1 月・3 月 北海道総合在宅ケア事業団 (苫前町)
2. 本間早苗:在宅難病患者訪問検診 (岩内保健所)、岩内、24 年 6 月 18 日
3. 本間早苗:在宅難病患者訪問検診 (稚内保健所)、利尻・礼文 3 町、24 年 7 月 12 日
4. 本間早苗:在宅難病患者訪問健診 (岩内保健所)、岩内、24 年 12 月 3 日
5. 武井麻子:「脊髄小脳変性症 (多系統萎縮症も含む) 最新の治療方法に関する報告」、第 39 回難病患者・障害者と家族の全道集会苫小牧大会、苫小牧、24 年 7 月 28 日
6. 本間早苗:「パーキンソン病の新薬と再生医療の展望」, 第 39 回難病患者・障害者と家族の全道集会苫小牧大会、苫小牧、24 年 7 月 24 日
7. 武井麻子:2012 年度難病医療・福祉相談会懇談会、北海道難病センター(札幌)、25 年 3 月 15 日

(2) 神経難病リハビリテーション部門 (中城雄一)

1) 学会発表

月日	氏名	種類	名称
24 年 6 月 30 日	小野寺幸代	神経難病の各疾患と在宅期間の関係	第 12 回北海道病院学会
6 月 30 日	徳永典子	頸椎装具が筋萎縮性側索硬化症患者の ADL に与える影響について	第 12 回北海道病院学会
6 月 30 日	藤田賢一	パーキンソン病と脊髄小脳変性症の音響分析	第 12 回北海道病院学会
10 月 27 日	菅原由衣	症状の進行にあわせて福祉用具を導入した ALS の一症例	第 43 回北海道作業療法学会
10 月 27 日	相馬大介	初期の ALS に対し、告知前から作業療法が関わる事のできた一症例	第 43 回北海道作業療法学会
10 月 28 日	高橋美博	パーキンソン病の高次脳機能評価と課題についての文献レビュー	第 43 回北海道作業療法学会

10月28日	桑原拓己	パーキンソン病の認知障害に対する視知覚刺激を用いた訓練効果について	第43回北海道作業療法学会
11月23日	加藤恵子	パーキンソン病の遂行機能障害に対する視知覚刺激を用いた認知リハビリテーションの効果について	第36回日本高次脳機能障害学会総会

11月30日	桑原拓己	高次脳機能障害、運動障害に Rivastigmine patch と作業療法の併用が奏功した Parkinson 病	第30回日本神経治療学会総会
25年2月2日	西海 颯一郎	パーキンソン病患者における立ち上がり動作と視覚刺激について	第33回札幌市病院学会
2月2日	西村日和	パーキンソン病患者の姿勢異常に対する体幹回旋ストレッチの即時的効果について	第33回札幌市病院学会
2月2日	畑中茉紀	パーキンソン病患者の歩行における口頭指示の影響について	第33回札幌市病院学会
2月2日	坂野康介	座長	第33回札幌市病院学会
2月2日	小室祐子	在宅復帰が困難と予測された事例が妻としての役割を再獲得するまで	第33回札幌市病院学会
2月2日	新藤和季	抑うつ状態を呈する患者に対する作業活動選定についての考察～高齢期パーキンソン病患者の事例をととし	第33回札幌市病院学会
2月2日	藤田賢一	座長	第33回札幌市病院学会
2月16日	尾野美奈	Temporal Characteristics of Speech in Individuals with Parkinson's disease	2 nd Japan-Korea neurorehabilitation Conference

2) 研修受け入れ

マッサージ研修	年6回(12日間)	北海道高等盲学校理療研修センター
---------	-----------	------------------

3) 社会活動

		名 称	参加人数
24 年 7 月 29 日	ボランティア	北海道難病連全道研修会	4 名
10 月 28 日	ボランティア	北海道難病連チャリティーバザー	6 名
12 月 16 日	ボランティア	北海道難病連チャリティークリスマス	1 1 名

		名 称	参加者
24 年 7 月 11-13 日	難病検診	利尻・礼文 3 町在宅難病患者訪問検診	神原美里
8 月 26 日	難病検診	厚岸・浜中地区難病医療福祉相談会	坂野康介
9 月 5 日	難病検診	羽幌地区難病医療福祉相談会	伊藤裕子
5 月 29-30 日	支援事業	苫前町リハビリテーション支援事業	藤田賢一
7 月 23-24 日	支援事業	苫前町リハビリテーション支援事業	藤田賢一
9 月 25-26 日	支援事業	苫前町リハビリテーション支援事業	藤田賢一
11 月 12-13 日	難病検診	平成 24 年網走保健所神経難病検診	尾野美奈
11 月 28-29 日	支援事業	苫前町リハビリテーション支援事業	藤田賢一
25 年 1 月 28-29 日	支援事業	苫前町リハビリテーション支援事業	藤田賢一
3 月 26-27 日	支援事業	苫前町リハビリテーション支援事業	藤田賢一

4) 講義・講演

月日	講 師	内 容	講演会名、学校名
24 年 7 月 5 日、 7 月 19 日	中城雄一	神経筋疾患のリハビリテーション	北海道千歳リハビリテーション学院
9 月 8 日	中城雄一	パーキンソン病の理学療法	北海道理学療法士会胆振地区現職者講習会
11 月 15 日 11 月 20 日	中城雄一	神経筋疾患のリハビリテーション	北海道リハビリテーション大学校
12 月 6 日	坂野康介	パーキンソン病のリハビリテーション	第 2 回札幌市難病医療相会

5) 士会・協会活動

参加者	内 容	士会・協会名
中城雄一	幹事会、例会、合同シンポジウム、連絡会の連絡会	西区在宅ケア連絡会
中城雄一	幹事会、シンポジウム	北海道在宅医療推進フォーラム
加藤恵子	北海道・東北エリア重点課題研修会	日本作業療法士協会教育部
桑原拓己	現職者共通研修会	北海道作業療法士会札幌支育部

6) 臨床実習受け入れ：

見学実習 11 施設、12 名、検査実習 1 施設、1 名、評価実習 7 施設、7 名、総合実習 15 施設、15 名を受け入れた。

実習受け入れ養成校一覧
北海道大学
札幌医科大学
北海道文教大学
北海道医療大学
札幌リハビリテーション専門学校
札幌医学技術福祉歯科専門学校
日本福祉リハビリテーション学院
北海道リハビリテーション大学校
北海道千歳リハビリテーション学院
北都保健福祉専門学校
帝京平成大学
臨床福祉専門学校
太田医療技術専門学校
岡山医療技術専門学校

7) 北海道神経難病リハビリテーション研究会活動

24 年 12 月 17 日	研究会設立	
25 年 3 月 17 日	第 1 回公演会	知ればこわくない！ パーキンソン病のリハビリテーション 講演Ⅰ 中馬孝容先生、講演Ⅱ 望月久先生

(3) 神経難病看護・ケア部門

日々の看護活動を通して患者さんに安全・安楽で QOL の高い生活を提供するためのスキルの向上を目指しています。

1) 研修会参加状況：

院外研修参加状況

開催期間	研修テーマ	主催	参加者
24 年 5 月 8 日	2012 年度 感染対策セミナー	日本感染 管理 支援協会	高瀬 恵利 富山 尚子 佐久間 さおり
5 月 12 日	説明責任がはたせる記録・実践 フォーカスチャータィング 2012	JFC 協会	三谷 理子 平野 良枝 鈴木 りか 竹本 朋恵 丹羽 幸恵 山本 麻子 瀧 千代絵 酒部 美代子 岡崎 香織
5 月 25 日	輝け看護師 Part 2 ー元気になる看護ー	北看協	佐藤 美和
5 月 27 日	看護研究学会	北看協	齋藤 由美子 佐藤 美和
6 月 2 日～3 日	今、求められる新人教育ー新人看護師 さんと一緒に学ぼう 第 1 回	北看協	野崎 ももこ
6 月 14 日～15 日	看護管理 I 看護管理の初めの一步	北看協	得能 絵梨子 丹羽 幸恵
6 月 22 日～23 日	看護研究に使える統計学ー講義コーー	北看協	佐藤 美和
6 月 27 日～29 日	医療安全基礎講座 2012	国際予防	佐藤 美和

		医療 リスクマ ネージ メント連 盟（東大）	
7月6日	看護過程研修：NANDA・NOC・NICの活用	市立札幌 病院	竹本 朋恵 平野 良枝
8月30日～9月1 日	第17回日本難病看護学会学術集会	日本難病 看護学会 （東京）	石田 千春
8月31日	医療安全に関する研修会「ご意見箱」	札幌市医 師会	齋藤 由美子
9月8日	看護管理者懇談会	札幌第2支 部	齋藤 由美子 佐藤 美和
10月20日	大谷流「ココロの元気」のつくり方	札幌2・3 支部	齋藤 由美子 佐藤 美和
11月19日	北海道 花王 皮膚・排泄セミナー	花王カス タマー マーケテ ィング	関 晴恵
11月22日	院内感染対策セミナー	札幌市保 健所	富山 尚子
11月24日	スミス・アンド・ネフュー北海道 オートムセミナー（褥瘡）	スミス・ア ンド・ ネフュー ウンド マネジメ ント	齋藤 安代 名古 かおり 渡邊 彩子
11月25日	説明責任がはたせる記録・実践	JFC 協会	酒部 美代子

	フォーカスチャータリング 2012		
12 月 11 日-12 日	心のケアー自殺・うつ病等の現状とその支援	北看協	千葉 純子
H25 年 1 月 27 日 -28 日	今、求められている新人教 ー新人看護師さんと一緒に学ぼう	北看協	山田 悠季子 海野尾 美保子 得能 絵梨子 藤田 恵巳子 清水 恵美子
2 月 23 日	医療事故・紛争対応研究会 第 7 回年次カンファレンス	医療事 故・紛争 対応研究 会 (横浜み なとみら い)	佐藤 美和

述べ 20 コース

述べ 41 人

院内研修参加状況

開催期間	研修テーマ	講師	主催	参加数(看護職/全体)
4 月 24 日	神経学診療法・目で見る神経疾患	森若院長	看護部・ 医安全	27/57
5 月 8 日	パーキンソン病について	森若院長	看護部・ 医安全	21/51
5 月 15 日	ALS	森若院長	看護部・ 医安全	23/51
6 月 5 日	睡眠について	森若院長	看護部・ 医安全	16/49

6 月 28 日	標準予防策・手指	下川 Ns	感染対策 チーム・ 委員会	24/65
7 月 10 日	脊髄疾患	森若院長	看護部・ 医安全	16/43
8 月 23 日	MRI 安全管理について	名内存人氏	検査課・ 医安全	27/37
8 月 24 日	フォーカスチャータニングの 基本	田中陽子氏	看護部	
8 月 30 日	ロボットスーツ HAL	安永好宏氏	医務部・ 医安全	4/35
9 月 25 日	多発性硬化症	深浦彦彰 Dr	北海道神 経難病研 究 センター	15/41
10 月 11 日	最新の褥瘡ケア	佐藤明代氏	褥瘡対策 委員会	23/44
10 月 25 日	インフルエンザ・ノロウイル ス	西村 PT	感染対策 チーム・ 委員会	14/48
11 月 20 日	パーキンソン病の在宅医療	伊藤和則氏	センター	11/39
2 月 28 日	個人情報漏えい事故について	白濱 XP 技師	個 人 情 報・医安 全	
3 月 19 日			感 染 対 策・チー ム委員会	

2) 対外活動 (救護班)

H24 年 12 月 16 日	清水 恵美 子	2012 年度難病連チャリティクリスマスパ ーティー	札幌
-----------------	------------	-------------------------------	----

3) 学生実習受け入れ

年 月 日	名 称	受入数
H24 年 10 月 30～31 日	天使大学 1 年 看護ケア提供システム論	4 名
H24 年 11 月 6～7 日	天使大学 1 年 看護ケア提供システム論	4 名

(4) 神経難病医療相談・福祉支援部門（黒田 清）

北海道内各地で検診・相談会業務を担当し、医療相談・福祉支援事業を展開した。

1) 検診

24 年 7 月 11-13 日	黒田 清	平成 24 年度神経難病患者訪問検診～礼文町・利尻町・利尻富士町（稚内保健所）
11 月 3 日	黒田 清	平成 23 年度リハビリ福祉相談会（北海道難病連・北海道であいの会／SCD・MSA）

2) 研修会

24 年 4 月 10 日	木村 愛	第 159 回西区在宅ケア連絡会～診療報酬・介護報酬同時改定を斬る
5 月 15 日	木村 愛	札幌市医師会西区・手稲区支部地域ケアに関する研修会 ～シンポジウム 地域包括ケアシステムの構築に向けて よりよい地域ケア会議をめざして～
6 月 9 日	中塚大介	北海道医療ソーシャルワーカー協会 学生研修会
6 月 23 日	木村 愛	北海道医療ソーシャルワーカー協会 研究支援研修会
6 月 30 日	木村 愛	北海道医療ソーシャルワーカー協会 事例検討会
9 月 28-29 日	黒田 清 木村 愛	日本難病医療ネットワーク研究会 ～みんなで支える在宅療養
11 月 4 日	黒田 清 木村 愛	北海道神経難病研究センター開設特別記念講演会 北海道神経難病研究センター開設特別記念講演会
25 年 1 月 29 日	木村 愛	北海道医療ソーシャルワーカー協会 中央 E 支部、札幌市介護支援専門員連

		絡協議会西支部 共催 ～ よりよい支援のために今できること 連携の視点から
2月25日	木村 愛	北海道医療ソーシャルワーカー協会 ～ソーシャルワーク・リサーチの意義と研究指導の方法
2月28日	黒田 清	札幌市主催 障害者総合支援法に関する説明会
3月9日	木村 愛	北海道医療ソーシャルワーカー協会 ～成年後見制度の利用支援 SWの視点から
3月17日	黒田 清	北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会

3) 講義

24年5月17日	黒田 清	北大医学部学生講義 ～神経難病と社会保障 MSWの役割
6月14日	黒田 清	北大医学部学生講義 ～神経難病と社会保障 MSWの役割
25年2月19日	黒田 清	手稲溪仁会病院研修医講義 ～神経難病と社会保障 MSWの役割

4) ボランティア

25年3月1日	木村 愛	世界希少・難治性疾患の日・行事 (北海道難病連)
---------	------	--------------------------

資料 1-1 北海道神経難病研究センター開設記念講演会ポスター（表面）



北海道神経難病研究センター 開設特別記念講演会

**入場
無料**

車椅子スペースあり

平成24年
11月4日(日)
13:30～15:45

札幌グランドホテル
グランドホール2階 於
札幌市中央区北1条西4丁目
TEL(代表) 011-261-3311

講演 1

「神経難病医療に期待するもの」

日本難病・疾病団体協議会代表
NPO 法人難病支援ネット北海道代表

伊藤 たてお氏

講演 2

「神経難病と緩和医療」

北里大学東病院神経内科講師
北里大学東病院難治性疾患難病センター センター長

荻野 美恵子氏

主 催 一般財団法人 北海道神経難病研究センター
〒063-0802 札幌市西区二十四軒2条2丁目 4-30 TEL 011-631-1161
協 賛 財団法人 北海道難病連
後 援 社団法人 北海道看護協会 社団法人 札幌市医師会 一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会

資料 1-2 北海道神経難病研究センター開設記念講演会ポスター（裏面）

北海道神経難病研究センター 開設特別記念講演会 演者のご紹介



伊藤 たてお 氏

神経難病においては病状の変化、家族を巻き込む生活の変化、就労、移動の困難さ、専門医療の不足・地域偏在、ケアスタッフ不足、所得減少、高額な医療費・介護費用負担など様々な問題が山積している。人々の意識、社会・行政が変われば、患者の生き方も変わる。神経難病医療に何を期待するのか、患者・家族の支援の立場から講演したい。

【略 歴】

- 昭和 20 年 室蘭市生まれ 4 歳で重病筋無力症発病
- 昭和 47 年 全国筋無力症友の会北海道支部設立
- 昭和 48 年 北海道難病団体連絡協議会設立 同代表、事務局長
- 昭和 57 年 財団法人 北海道難病連設立 同代表、事務局長
- 昭和 61 年 日本患者・家族団体協議会（J P C）設立 同代表
- 平成 17 年 一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会（J P A）設立 同代表
- 平成 19 年 難病支援ネット北海道設立（2010 年 NPO 認可） 同代表
- ・ 厚生科学審議会 疾病対策部会難病対策委員会委員
- ・ 内閣府 障害者政策委員会委員
- ・ 全国難病センター研究会事務局長（会長 糸山 泰人）



萩野 美恵子 氏

日本においては緩和医療はがんに特化されている感があるが、本来は治療の見込みがない全ての患者のあらゆる苦しみを軽減するものである。その意味で難病医療は緩和医療そのものである。当日はこれまでの当院のとりくみなど具体的な神経難病の緩和医療についてみなさんと共有したい。

【略 歴】

- 昭和 60 年 北里大学医学部卒業
- 平成 4 年 米国コロロンビア大学留学（3 年間）
- 平成 6 年 北里大学医学部大学院修了（医学博士学位取得）
- 平成 12 年 北里大学医学部神経内科学講師
- 平成 17 年 東京大学大学院医療倫理人材養成講座（C B E L）終了
- 平成 18 年 東京医科歯科大学大学院医療政策学修士課程卒業（医療政策学修士取得）
- ～20 年 3 月
- 平成 20 年 4 月 北里大学東病院難病性疾患難病センター センター長、受託医療部長
厚生労働科学研究費補助金難病性疾患克服研究事業
「難病性疾患の医療費構造に関する研究」班
主任研究者（平成 20 年度～平成 22 年度）

【主な研究分野】

神経難病（ALS、パーキンソン病、免疫性神経疾患等）、臨床倫理、
神経難病の在宅治療、終末期医療、医療経済・政策
神経内科専門医、内科認定医、日本在宅医学会認定専門医



財団法人 北海道神経難病研究センター

神経難病を包括的に研究

コメディカルも参加

道神経難病研究センター開設記念講演会

西区の道神経難病研究センター（森若文雄センター長）は、平成二十三年七月の開設以来、医師だけでなく、看護師やリハビリスタッフなどさまざまな職種が参加。神経難病に関する病態解明や学術的治療研究のほか、講演会、シンポジウム等を開催するなど、活動を本格化させている。四日には、札幌市で開設特別記念講演会を開催し、医療関係者や患者らが数多く参加した。

「パーキンソン病における発声、MDVPを用いた検討」など、各研究部門が国内外の学会で研究成果を発表。森若センター長が「フリオニ病の状況について」の論文を老年期認知症研究会誌に掲載するなど、設立初年度から数多くの実績を挙げている。

センター開設には、研究結果や症例記録などの各種資料や、国内外の雑誌などを所蔵した研究資料室や図書室を設け、講演会や研究発表会を開催できる七十人を収容可能なhokuyukを掲載するなど、設立初年度から数多くの実績を挙げている。

医療法人北祐会創設者の故濱田毅氏の、本道における神経難病治療の体制整備に対する強い思い。



「パーキンソン病における発声、MDVPを用いた検討」など、各研究部門が国内外の学会で研究成果を発表。森若センター長が「フリオニ病の状況について」の論文を老年期認知症研究会誌に掲載するなど、設立初年度から数多くの実績を挙げている。

センター開設には、研究結果や症例記録などの各種資料や、国内外の雑誌などを所蔵した研究資料室や図書室を設け、講演会や研究発表会を開催できる七十人を収容可能なhokuyukを掲載するなど、設立初年度から数多くの実績を挙げている。

北海道医療新聞
2012年11月9日号

「パーキンソン病における発声、MDVPを用いた検討」など、各研究部門が国内外の学会で研究成果を発表。森若センター長が「フリオニ病の状況について」の論文を老年期認知症研究会誌に掲載するなど、設立初年度から数多くの実績を挙げている。

資料 3-1

第1回北海道神経難病リハビリテーション研究会 講演会ポスター（表面）

第1回 北海道神経難病リハビリテーション研究会 講演会

**知ればこわくない！
パーキンソン病のリハビリテーション**

日時：2013年3月17日（日）
開場／12：30 開会／13：00～16：00

場所：札幌市医師会館 5階大ホール
札幌市中央区大通西19丁目

定員250名（参加費無料，事前申し込みなし）
＊リハビリテーションに関わる職種の方を対象とします。

講演Ⅰ

「パーキンソン病のリハビリ処方」

講師：
滋賀県立成人病センター リハビリテーション科部長
中 馬 孝 容 先生
リハビリテーション専門医・神経内科専門医
座長：本間早苗 北海道神経難病研究センター 理事

講演Ⅱ

「エビデンスを活用したリハビリの実際」

講師：
文京学院大学保健医療技術学部 理学療法学科教授
望 月 久 先生
理学療法士
座長：中城雄一 北海道神経難病研究センター 理事

主催：一般財団法人北海道神経難病研究センター
後援：札幌市医師会、公益社団法人北海道理学療法士会、
公益社団法人北海道作業療法士会、北海道言語聴覚士会

問い合わせ：北海道神経難病リハビリテーション研究会
事務局 中城雄一
tel:011-631-1161 fax:011-631-1163
E-mail: y-nakashiro@hokuyukai-neurological-hosp.jp
<http://www.hokkaido-find.jp>

資料 3-2

第1回北海道神経難病リハビリテーション研究会 講演会ポスター（裏面）

講演Ⅰ

「パーキンソン病のリハビリ処方」

滋賀県立成人病センターリハビリテーション科部長 中 馬 孝 容



パーキンソン病は徐々に重症度が増していくが、さらに加齢の影響も加わってくる。症状は運動症状だけではなく、非運動症状もあり多岐にわたる。個々の状況に応じてリハビリテーション処方を行い、自主訓練指導を行うことが重要である。最近では、Cueを利用した外発性随意運動を取り入れた訓練が効果的であるとの報告が多く、歩行障害や姿勢反射障害を伴っている患者に対し試みる価値は高い。今回、パーキンソン病のリハビリ処方のポイントについて述べたいと思う。

【略 歴】

平成2年：奈良県立医科大学卒業
同大学神経内科入局
平成3年：奈良県リハビリテーションセンター勤務
平成5年：奈良県立医科大学神経内科医員
平成8年：北海道大学医学部リハビリテーション医学助手
平成15年：北海道大学病院リハビリテーション科助手
平成20年：滋賀県立成人病センターリハビリテーション科副部長
平成21年：滋賀県立成人病センターリハビリテーション科部長

【学会活動】

日本リハビリテーション医学会試験委員会委員長（平成24年4月～）
日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科女性専門医ネットワーク委員会委員（平成21年7月～）
日本リハビリテーション医学会専門医 日本神経学会専門医 日本臨床神経生理学会認定医
評議員：日本リハビリテーション医学会、日本神経治療学会、バイオメカニズム学会、日本身体障害者補助犬学会

講演Ⅱ

「エビデンスを活用したリハビリの実際」

文京学院大学保健医療技術学部 望 月 久



いくつかのガイドラインやシステマティックレビューからみれば、パーキンソン病に対するリハビリの有効性に関するエビデンスはかなり高く、薬物療法と併用して理学療法や作業療法を実施することが強く勧められています。パーキンソン病のリハビリとしては、主に生活における活動性の維持・向上に加えて、疾患の特徴を踏まえた理学療法や作業療法が実施されています。また、パーキンソン病は進行性疾患であることから、進行を考慮したリハビリ内容の変更が不可欠です。講演では、パーキンソン病に対するリハビリのエビデンスを提示しつつ、進行にそったリハビリの内容、パーキンソン病の障害特性を考慮した理学療法について紹介します。

【略 歴】

昭和57年3月：東京都立府中リハビリテーション専門学校理学療法学科卒業
昭和57年4月：東京都衛生局入都（都立神経病院リハビリテーション科）
以後、都立府中病院、都立荏原病院、都立大塚病院、都立墨東病院勤務
平成19年3月：東京都退職
平成19年4月：文京学院大学保健医療技術学部理学療法学科 教授

専門分野：神経系疾患の理学療法、姿勢調節（バランス機能）



一般財団法人北海道神経難病研究センター

資料 4

第1回北海道神経難病リハビリテーション研究会 講演会に関する 北海道医療新聞記事

7月23日第3種郵便物認可

北海道医療新聞

パーキンソン病 感覚機能の活用を

中馬氏が講演

道神経難病リハビリ研

道神経難病リハビリテーション研究会の第一回講演会が札幌市で開かれ、「パーキンソン病のリハビリ処方」と題し、滋賀県立成人病センターの中馬孝容リハビリテーション科部長（元北大病院助手）が講演。人間の感覚機能を活用した訓練の追究を訴えた。



「簡単に楽しい自主訓練の指導を」と中馬部長

中馬部長は、同病の症状は多岐にわたる中、全身状態の管理が不可欠であり、薬物療法をメインに「運動を組み合わせて薬の効果を最大限に引き出す」と解説。早期のリハビリ導入が必要と述べた。

日本神経学会の治療ガイドラインは、音刺激による歩行訓練で歩行改善させることを推奨しており、メトロノームのリズムに合わせた訓練の成果を紹介。「単なる筋肉トレーニングではなく、人間が有する感覚機能に訴えかけるリハビリ」が主流になってきたと訴え、一方、外来リハビリを受け入れる医療機関が少ない現状を問題提起した。

患者本人による在宅での自主訓練でカバー

「習慣付けできるよう、だりハビリ介入の余地は簡単で楽しいシンプルな運動の指導を」とアドバを把握した上での創意工夫、筋力低下を防ぐリハビリ医やPT、OT、STに呼びかけた。